

たぐみ

T A K U M I

No.008

平成12年6月●初夏号
信州名匠会

(題字：池田三四郎名誉会長)

木目の美を生かし建築の寿命を延ばす、 匠の技と知恵 '99信州名匠会研修旅行「富山県の建築見学」

信州名匠会'99年の研修旅行は、平成11年11月6・7日、29名の参加により挙行された。今回は、岐阜県の飛騨古川と富山県の高岡・井波等を訪れ、両県の代表的な古建築・近代建築と、建築に関連するミュージアム・町並みを見学した。なかでも圧巻だった富山県高岡市の国宝 瑞龍寺のようすを、以下にご紹介する。



●1日目に訪れた高岡市・瑞龍寺。仏殿前にて

○現代によみがえった江戸初期の禅宗伽藍

瑞龍寺は、17世紀半ばに加賀藩3代藩主・前田利常が建造したもの。総門・山門・仏殿・法堂を軸に、禅堂とおくくり（厨房）、浄頭（便所）と浴室がそれぞれ左右対象に配置され、江戸初期の禅宗寺院の特徴をよく表す建築として評価が高い。

昭和60年から平成8年にかけて、同寺で行われた大改修は、画期的事業となった。工事を進める中で、建造物の詳細を記した古図など数々の史料が発見されたため、当初の修理計画を大幅に変更し、往時の姿を彷彿させる「伽藍瑞龍」を作り上げる結果となったのだ。

○気迫と情熱を生き生きと伝える匠の技

研修当日は四津谷道昭住職に案内をいただき、約360年前に実際に使用されていた図面や、設計関連の秘伝書にもふれる機会を得た。

瑞龍寺に見られる技のいくつかを紹介すると、(1) 死に節や傷に使った埋木の木目を、下地の木目と一致させている、(2) 和算を用いた設計を行い、材の寸法を何厘・何毛以下まで正確に数字で記している、(3) 仏殿の階段板は柂目を使っているが、最上段のみ真円とし、仏像の中心線とぴったり合わせている、(4) 建物の寿命を保つため、敷居の両端に水抜き穴を開けてある、(5) 屋根の雪が自然に流れるよう鬼瓦をデザインしている、など。



●瑞龍寺・四津谷道昭住職の説明に、興味津々で聞き入る一同



●瑞龍寺では、17世紀半ばの匠たちの技術を目の当たりにし、随所で感嘆の声があがった



●建築に秘められた匠の技に見惚れる。岐阜県古川町「飛騨の匠文化会館」にて

参加者たちは四津谷住職の説明に聞き入り、当時の職人たちの気迫がこもった技にふれるごとに感嘆の声をあげた。精巧な技術とともに、素材と、また禅の精神と向き合う棟梁たちの純真さをいかに伝える建築だった。



●土蔵の白壁や格子が美しい井波の門前参道。新しく舗装された石畳の道を行く

●井波・瑞泉寺で記念撮影



○研修旅行日程

11月6日（土）／長野→須坂長野東IC→松本IC→安房峠トンネル→民芸ミュージアム 匠の館→飛騨古川視察：瀬戸川と白壁土蔵街・飛騨古川まつり会館→飛騨の匠文化会館→昼食（味処 古川）→神岡→富山IC→小杉IC→高岡視察：瑞龍寺・土蔵造り千本格子の町並み→富山・富山エクセルホテル東急（泊）

11月7日（日）／富山→富山県水墨画美術館→新湊市：新湊市博物館・新湊海王丸パーク→昼食（井波木彫りの里）→創遊館・井波彫刻総合会館→井波・瑞泉寺→砺波IC→魚津IC→上越IC→須坂長野東IC→長野

○'99信州名匠会研修旅行「富山県の建築見学」参加者名簿（氏名／所属の順）

伊藤章／（有）アキ・プランニング 大井芳也／（株）山二 久保敏幸／（株）さつき苑 倉橋英太郎／（株）倉橋英太郎建築設計事務所 志田重忠／宮澤建築 鈴木康圓／県森林組合連合会 関野和人／（有）アーキクラフト 高梨廣男／（有）高梨建設 竹内公夫／（株）ダスキンビホーム 田代晋逸／宮澤建設 西宮武久／（有）綿内瓦工業 堀誠／堀建築設計事務所 堀幸一／宮澤建築 増田幸雄／匠建設（株） 溝端利一／MEデザイン室 宮川裕行／三ツ友建築企画 宮下恒夫／サンコー特機（株） 宮澤郁夫／宮澤建築 山本耕平／長野サウナ販売（株） 渡辺昌祺／渡辺硝子建材（株） 勝田千亜紀／トライアン（株） 五明良平／（株）五明 坂田守夫／坂田工業（株） 左右田昭道／（株）インテック左右田 若林義久／（株）二見屋 宮本忠長／（株）宮本忠長建築設計事務所 竹内美樹／（株）新建新聞社 西澤嘉雄／（株）宮本忠長建築設計事務所 穎原澄子／（株）宮本忠長建築設計事務所（計29名）

会員にきく 「たくみの仕事」 Vol. 1

一生使える家具しか作らない

(有)アキ・プランニング 伊藤章さん (家具設計・製造/須坂市)

<伊藤章さんプロフィール>

昭和32年小布施町生まれ。美術学校を卒業後、21歳より大阪で店舗設計の修業を始める。24歳より滝沢家具にて家具設計。28歳で独立、伊藤木工須坂営業所を開設。平成4年(有)アキ・プランニング創設。おもな仕事に(株)鈴木本社ビル、竹風堂松代店、池田満寿夫美術館売店、上林ホテル仙寿閣ロビー、県立自然保護研究所の家具・ショーケースなどがある。

○妥協なく、丈夫で長もちする家具を

丈夫で長もちし、建物に美しく調和する家具を作る。これが仕事のモットーです。納得のいく仕事をするため、木材の調達から設計、制作、現場への設置まですべて私と、父と兄が営む伊藤木工(小布施町)とでやります。

いい木材は年々減少し、あっても高価なため、使える機会は稀です。良い木材であれば、買い取っておくこともあります。中には10年以上の乾燥期間が必要なものや、実際にいつ使えるかわからない材もあります。木材のストックは、道楽をするような気持ちでやるしかありませんね。



制作を人任せにできないのは、節を除いて木目の一番きれいなところを生かすなど、図面上で説明しきれない細かな部分を現場で調整するためです。また板の厚さが表面に出ない部分でも、薄い板でごまかすことはできません。目では確かめられない木材の厚みが、なぜかその空間の雰囲気左右するのです。

扉の蝶番一つでも、多く出回っている安くてすぐ壊れるものより、価格が10倍する代わりに、子供がぶら下がっても壊れないくらい丈夫で耐久性の高いものを選びます。「一生使える家具を」と考えると、材料選びも作業にも、まったく妥協の余地はありません。



○つねに最大の力で臨む

自分の力を存分に発揮できる仕事に巡りあうことがあります。施工中の苦労が多いほど、達成感や自分が成長できたという充実感も得られます。しかしそんなとき、仮に謙遜のつもりでも「勉強になりました」とは言いたくないですね。施主さんは職人の腕を信頼して、人生の中で大きな意味をもつ仕事を託して下さいます。そのお客様の大切な財産を預かっていながら「勉強だ」などと言ったら失礼ですし、不安や不満のもとになりかねません。

お客様に喜んでいただき、長くおつきあいできることが、この仕事の何よりのやりがい입니다。どんな仕事も、力の出し惜しみはせず精一杯やる。自分より高い技術をもつ人に出会ったら、何とかしてその技を盗み、自分のものにする。いつもそんな気持ちで、仕事に臨みたいものです。



○「クレームのない仕事」実現できるような会に

全力を尽くした仕事であっても、完成後に何らかのクレームが発生します。扉のたてつけが悪いとか、他の業種においてもいろいろなクレームが出ないように、名匠会が力を合わせて臨んだらどうでしょうか。素材選びから設計、制作・施工と、職人さんたちの磨き抜かれた感性・技術の粋を結集したとき、あらゆる点で施主さんを満足させられる—そんな会であってほしいし、そこに寄与できる自分でありたいと思います。そんな洗練された建物・空間が作れたら、それは匠の仕事の素晴らしさを広く人々に伝える最高の媒体になるでしょうし、名匠会の理念の結晶となりうるでしょう。これは単なる夢ではなく、実現可能な希望ではないかと思うのですが。

会員にきく

「たくみの仕事」 Vol. 2

自分を高めるための一歩、思い切って

(街)中村木工所 中村光敬さん^{みつひろ} (建具設計・製造/戸倉町)

<中村光敬さんプロフィール>

昭和34年戸倉町生まれ。高校卒業後、父・直由さん(故人)のもとで建具製造の修業に入る。昭和62年全国建具展示会で内閣総理大臣賞を受賞。一級技能士。住宅のほか、善光寺、布引観音、武水別神社をはじめ全国の社寺仏閣に、納入している。



○技術の向上とともに、知ってもらおう努力を

幾何学的な格子には、簡素さゆえの潔さ、凜とした美しさがあります。私はそこに自分らしい表現を生かしたいと思い、独自のデザインを主とした木製建具作りに力を入れています。

20代後半の頃、2年がかりで仕上げた建具で、内閣総理大臣賞をいただきました。これは採算を度外視し、夜間や休日の時間を使って、当時の私の技術と感性を出し切った作品です。経営面を優先せざるを得ない日々の仕事の中で腕を高めるためには、仕事という意識の外で、自分のための一歩を踏み出すしかないと思います。その作品が、即座に売上げにつながるわけではありません。しかしそれを見て気に入って下さった方が、仕事を任せて下さいます。あのとき

踏み出した一歩が、何年も後になって、かけがえのない財産となっているのです。

また展示会などの機会があるごとに、こうした作品を出展して、一人でも多くの方に知っていただくよう努めています。人前で話すのは慣れないと大変ですが、職人にも自己アピールの努力が必要ですよ。

○ハイテクシステムと手仕事の両輪で成り立つ

コンピュータの導入は、木工業界ではかなり早かったのではないのでしょうか。修業を始めて10年足らずの間に、親方である父の理解を得てCADシステムとNC加工機を採用しました。0.1mm以下の精度を要求されることに加え、次第に短縮される納期に対応するには必要なものと判断したためでした。この業界で生きていくために不可欠な、納期を守る迅速さ・仕事の正確さをこれらのコンピュータシステムが満たし、私と妻、姉という少人数での経営を支えています。

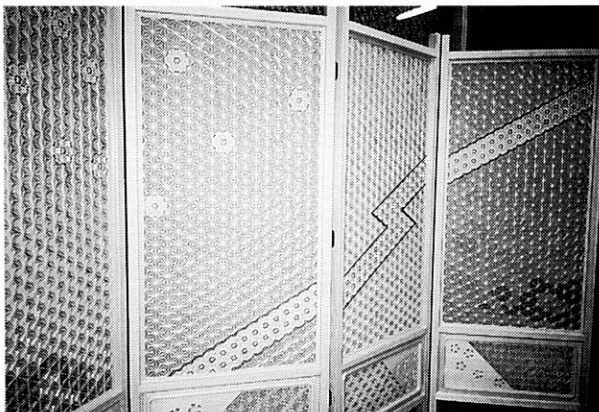
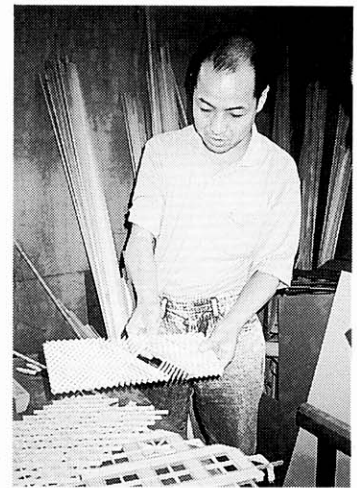
しかし機械化が進んでも、決め手になるのはやはり手作業。私の得意な細工物も、部品は機械制作ですが、組み立ては先の細いピンセット型ペンチで一つひとつ進めていくのです。微細な補正作業なども、手仕事のほうが機械より融通がきくし、体に蓄積された勤も生きます。ハイテクと古来の手技が調和して成り立つ仕事です。

○名匠会は貴重な学びの場

名匠会の研修会には、時間の許す限り参加しています。素晴らしい技術と思想を持った先生方から直接学べるのは、名匠会会員の特権。貴重なチャンスは最大限に活用したい。また異業種にいそむ仲間たちとの

語らいは、自分の仕事にプラスとなる大小さまざまなヒントを与えてくれます。

会で知り合った職人さんから「古い民家の改造をやっているんだけど、面白いから見に来ないか」と誘いをいただき、現場を見学したことがあります。これはいい刺激になりました。歴史ある建築にふれること、異分野の職人さんの仕事を生で見られること、いずれも得がたい機会です。見聞をより広めるという意味では、建築関連や造形の分野に留まらず、もっと多業種の会員が参加してもよいのではないのでしょうか。



定例研修会 REPORT

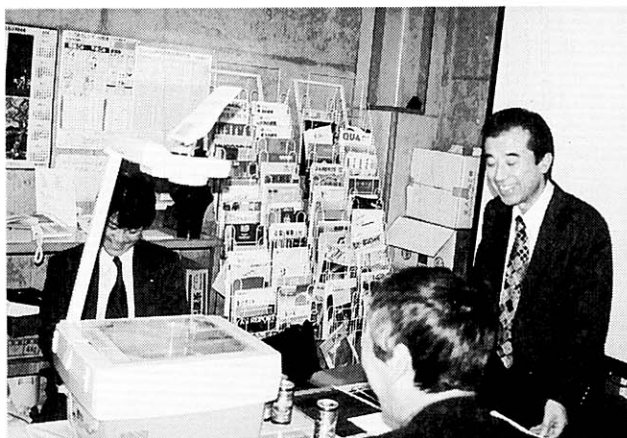
平成11年12月～平成12年5月

光

照度コントロールで
高齢者に快適な環境を

平成11年12月21日

講師：松下電工エンジニアリング 横田健治氏
参加者19名



●独自のデータを交えて話す横田氏（右）

眼の老化は、視力の低下だけでなく、色の識別が困難になる、まぶしさに弱くなる、暗い場所から明るい場所へ移動した際の順応に時間がかかるなどの現象を伴う。このような眼の老化に対し、以下のような考慮点が指摘された。

(1) 高齢者の作業環境では若者の2倍の明るさを確保する。(2) 部屋全体でなく600～1500lxのデスクスタンドで手元を明るくする。(3) トイレ照明は、深夜のトイレ後寝付かれなくなるのを防ぐため、1～10lxに抑える。(4) 消し忘れ防止のためセンサーも便利。(5) 深夜の歩行の安全のため、階段や廊下の足元灯も必要、など。

また最近の研究で、照明の照度の調整によって、高齢者の就寝前の徘徊など異常行動が緩和されることや、若年層でも睡眠感が改善されることが明らかとなってきた。これらを総合し、1日の光環境を時間ごとに制御するサーカディアンライティングが開発されている。

新年会

平成12年1月26日

会場：長野市・第一ホテル
参加者34名



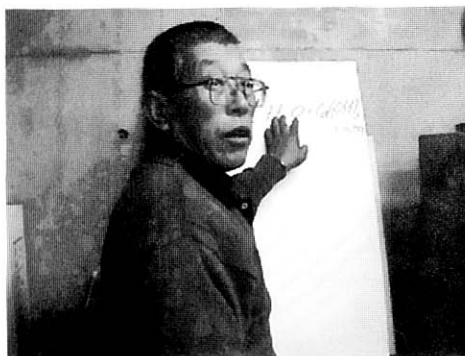
会員同士の親睦を図り、一年の抱負を語り合う信州名匠会新年会が、例年にならって開催された。当日は宮本副会長・降幡副会長も出席され、会員一同大いに励まされた。

左官

数々の仕事のコツを
紹介。実演・体験も

平成12年2月23日

講師：島田工務店 島田安雄氏
参加者18名



●持参した部材や道具を使って、わかりやすく説明する島田氏

研修会のために準備した下地パネルを使って、島田氏が黒みがきの実演を披露。会場の気温が高く、湿気がなかったため、乾燥が予想以上に早い状況であったが、熟練の技により美しいツヤが得られた。また参加者も、島田氏の手ほどきを受けながら、漆喰下地塗りに挑戦した。

このほか当日は、のり材料となる海草や左官道具の紹介があった。質疑では、面積の広い壁を塗る場合は、塗りの継ぎ目を作らないように大人数で一気に作業を進めること、土蔵の扉など重量のある部位の軸組は、重みとの釣り合いに考慮して斜めにすることなどが紹介された。

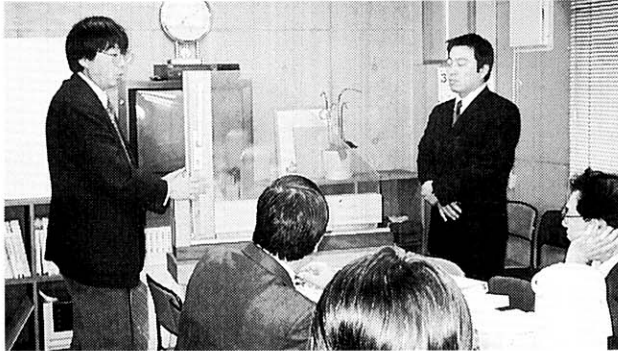
木製サッシ

注目を集める性能の高さ。
意見交換も活発に

平成12年3月22日

講師：(株)ノルド 石川章氏・中野勝弘氏

参加者17名



●サンプルを見せながら製品の特徴にふれる石川氏(左)と中野氏(右)

木製サッシは断熱・防露・防音に優れる。スウェーデンの専門メーカーと提携を結ぶ(株)ノルドの製品は、樹齢100年以上の北欧アカマツで含水率15%以上の材を使用。3層のt=4ガラス、12mmの空気層をもち、熱貫流率は1.46~1.63kcal/平方メートルh°C(複層ガラスF3+A6+F3は2.93)。

質疑では、材の節については日本と欧米で建具作成の感覚が違うことが話題となった。また、木製サッシは枠回りの見込みが大きいいため、意匠上の制約がある、施工の際に取り付ける水切りは規格品が欲しい、北欧材でなく信州カラマツなど国産材を製品にできないかなど、積極的な議論が交わされた。

陶芸

進取の気風 武石焼。
体験を楽しむ

平成12年4月29日

講師：雪しろ窯 村越久子氏

参加者22名



●桜が満開の武石村・雪しろ窯の庭で会食

有田焼の白地に若干の黒点が出たものを伊万里から石川県へ廻船で輸送し、それに絵を付けたものが九谷焼のはじまりと伝えられている。村越氏は、九谷焼に宿る進取の気風を受け継ごうとの思いで「武石焼」を興した。

講義を受けた後、参加者は村越氏とスタッフの指導により陶芸体験に挑んだ。湯呑みや小皿、抹茶茶碗など、この日成形までを行った作品は、雪しろ窯にて乾燥・素焼きの後、指定色の釉薬をかけて本焼され、1カ月後に完成した。作品は総会当日、会場に展示予定。

●信州名匠会新会員紹介 (平成12年5月現在)

職種★氏名★会社名★住所★TEL

- 監理★増田幸雄★匠建設(株)★長野市三輪6-6-2★TEL026-234-4161
- カーテン・ブラインド★山田一忠★インテリア販売ヤマダ★長野市南堀26-23★TEL026-244-6109
- 総合建設業★坂戸雄世★(有)サカト産業★長野市稲里町中氷鉦930-1★TEL026-284-3326
- 桐箱製造業★山中袈裟嗣★長野市妻科336-1★TEL026-232-0369

●平成12年度信州名匠会総会 開催のお知らせ

本年度の信州名匠会総会を、下記の日程にて開催いたします。万事お繰り合わせのうえ、ご出席くださいますよう、お願いいたします。

○日時/平成12年6月28日(水) 受付開始 15時
開会 15時30分
講演会 16時30分～
懇親会終了 20時30分(予定)

○会場/長野市・メルパルク長野(長野駅より徒歩2分)

※当日は、藤森照信会長・馬場璋造顧問も出席される予定です。なお、翌6月29日(木)には、ゴルフ大会を開催する予定です(8時14分～、長野カントリーゴルフ)。ふるってご参加ください。